

2024年10月13日

「契約のしるし」

創世記 9:12-17

早川 真牧師

神は初めに天地万物を造られた時に、それらすべてをご覧になって「極めてよい」と言われました。しかし、人間に罪が入りその心に悪いことばかりを思い計っているのをご覧になり、次のように言われました。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」(創世記 6:7)

神はご自分が創った人やすべての生き物をご自分の手で拭い去らなければならないことに、どれほど心を痛められたことでしょうか。地上に人の悪が満ちる時、神の心には悲しみの雲が沸き上がり、ノアの箱舟の出来事の時、その悲しみは洪水となって一度は地上の全ての生き物が拭い去られました。

しかし神はそこに、約 2000 年前、虹とは別のもう一つの契約のしるしを立てられました。それが十字架です。イエス・キリストは、地上を悪で満たす私たちの罪のため十字架の上で死んでくださいました。そして新しい契約を用意してくださいました。それは、このイエス・キリストを信じることによって、神の子どもとされ、神の祝福を豊かに受け継ぐことができるという契約です。十字架は、私たちが罰することなくご自分が代わりにその罰を受けてくださった神の変わる事のない愛を私たちに思い起こさせます。

今朝私たちは、私たちに先立って天に召された信仰の先達を覚える永眠者記念礼拝をおささげしています。神の新しい契約のしるしである十字架のもとに共に集い、世々としえに神の祝福を受け継ぐ一人一人とならせて頂きたいと思っております。